様式3

学校番号 19

令和4年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立若松高等学校

自己評価

学校運営計画（4月）

学校運営方針	「確かな学力」の向上を図り、知・徳・体の調和のとれた「豊かな人間性」を培い、国際社会に主体的に対応できる「生きる力」を育成する。 →3大プロジェクトの展開 「80-80作戦」「若松学」「開校110周年」		評価（総合）
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
これまでの、きめこまやかな指導、個別指導により、規範意識の向上、進路実績や部活動の躍進がみられ、保護者や地域からの信頼も高まり、創立110周年の行事を節目とし教育力の向上が図られている。多様な進路実績を追求するとともに、確かな学力の定着と個別指導の充実に努めている。さらに各教職員個々が教育活動の質の向上に取り組むことで、将来、どのような仕事に就いたとしても自分の力を最大限発揮し、社会に貢献できる人材を育成することができている。また、総合的探究型の学びである「若松学」を継続し、本校の真の教育力を内外に示すとともに、体験的キャリア学習の充実を図り、生徒一人ひとりの可能性を最大限引き出し、伸長し、「生きる力」を身につけた生徒を育成する。	礼儀正しく、規範意識の高い学校をつくる	・すべての生徒が時と場に応じた挨拶ができる。 ・学校内外を問わず、ルールを守って生活することができる。 ・出席皆勤等校内外より、表彰される生徒を各学年延べ60名以上を輩出する。	A
	若高キャリア教育プランを推進する	・多岐に亘る希望進路の100%実現を図るため、希望進路に合わせた若高キャリア教育プランを推進する。 ・進路実現のために、充実した個別指導を展開する。	
	教科指導力と生徒指導力を高める	・確かな学力を身につけさせる為の授業力の向上に努めるとともに、全ての教師がICT活用能力を習得し、授業にいかす。 ・自学による学力向上を図るため、効果的な課題作成（宿題や週末課題等）を行い、内発的な学習意欲を喚起（生み出す）する環境づくりに全教職員で取り組む。 ・生徒の問題行動を見逃すことなく、時機をとらえ組織的な指導を行うとともにいじめを絶対に許さない環境を生徒ともにつくる。	
	学校行事や部活動を活性化させ、元気あふれる若高を創る	・生徒会、ブロックリーダー、委員会活動、部活動の活性化を図り、学校行事や日々の活動をとおして課題解決能力を育成する。 ・部活動加入率80%を目指し、県大会出場部活動を増やす。 ・素直で明るく、文武両道に努力する心身ともにたくましい生徒を育てる。	
	地域および小・中学校との連携を深め、信頼度を高める	・地域との繋がりを大切にし、小・中学校や関係機関との連携を深め、地域の期待に応える「選ばれる学校（→地域に求められる学校）」づくりに努める。	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
教務部	教務	確かな学力の育成のための魅力ある授業の展開	・ICT機器を効果的に活用して、一人ひとりに考える力のつく効果的な授業手法の確立を目指し、生徒にとって魅力的で質の高い授業を提供し、確かな学力の育成に努める。	B	B	B	・今年度の途中から、生徒一人一台タブレット型端末が導入され、ICT機器をうまく活用した授業が増えている。次年度以降も、指導環境はますます充実するため、効果的な利活用を促進していきたい。 ・出席率については、97．8%（4～12月平均）となり、昨年度より1%減少した結果になった。新たな生活様式での学校の在り方を喫緊の課題として取り組みたい。 ・総合的な探究の時間については、昨年度に引き続き、新学習指導要領を踏まえた地域に根差した探究活動「若松学」を1・2学年で行うことができた。2学年を中心にフィールドワーク等、校内での学習に留まらない体験活動を実施し、次年度も若高でしか学ぶことのできない独自色を打ち出していきたい。 ・今年度から導入した観点別評価を実施することで、教員の授業改善に繋げていきたい。
			・3年生の特色あるコース（クラス）を活かした、進路実現のための授業の充実を図り、各学年とも出席率99%を目指す。	B			
			・観点別評価の特性を活かし、シラバスを利用して毎時間の授業評価を徹底する。	B			
		授業規律の徹底と家庭学習の定着	・国・数・英を中心とする日々の宿題や週末課題の徹底を図り、生徒の自習力の育成に努める。また、自習室の有効活用を促進し、上級学校進学を目指す中上位層の底上げを図る。	B	B		・各考査の予定や試験範囲を早めに生徒に提示したりすることによって、コロナ禍にあっても、生徒たちは例年と比べて遜色ない進路実績や学習成績を残したと考えている。校舎の改築中ではあるが、来年度も継続して、授業や自学自習等を行える落ち着いた学習環境を提供したい。 ・授業規律については、どの学年、クラスも年間を通して守られていた反面、コロナウイルス感染予防の観点において、休み時間の生徒の行動・態度に、まだ指導の余地があると感じている。生徒一人ひとりが、その場に応じた状況判断を行えるよう指導したい。
			・チャイム席を守り、授業内での規範意識を高める指導を行う。	B			
	企画	中学生への効果的な広報活動の推進	・中学校訪問において、中学校側に他校にはない本校の特長（進路実績、入試方法、学校環境等）を情報提供することで、中学生に本校入学への意識を高めさせる。	B	B	B	・中学校訪問や高校説明会を通して中学校側に本校の特長を提供できた。今後、面談者以外の教員や中学生に確実に本校の情報が提供されるよう工夫する必要がある。また、中学校教員対象の授業参観の実施を検討したい。 ・パンフレット、ポスター、広報紙等の広報物の作成、配布・掲示を積極的行った。ホームページの更新は適宜なされ良かった。タイムリーに話題を提供するためにも、次年度は年度当初に原稿担当者を決めるなどの改善を図りたい。 ・体験入学の参加者は目標に達しなかったが、学校説明会、デイツアー・ナイトツアーに参加したことにより、本校への受検志向が強まった。（アンケートの分析による）次年度も内容を検討しながら継続させたい。
			・広報媒体として、学校案内、ポスター、広報紙、プレゼンテーション用資料等を中学生の視点に立って作成する。昨年度、好評であったホームページについては、さらに中学生を引きつけるコンテンツをタイムリーにアップしていく。	A			
			・中学生体験入学と学校説明会は、計350名以上の参加者を目指す。（3年度：体験入学274人、学校説明会40名）応募の申込方法は、FAXから中学生によるWeb申し込みにすることを検討する。	B			
		防災意識の向上と防災教育の充実	・火災だけでなく、地震、風水害、津波などの災害に対応した卒業後も役立つ防災教育の充実を図る。また、地域の防災避難拠点としての役割を正しく理解することで、地域防災への関心を高める。	B	B		・防災訓練における避難状況は年々良くなっており、消防署職員からもよい評価を受けている。防災訓練に向けての生徒全体の意識向上を図るとともに、日常の防災意識の啓発を推進したい。また、校舎改築による避難経路について、生徒に周知する必要がある。 ・PTA総会における議案書の作成、オンラインでの実施、書面決議をスムーズに実施することができた。今年度も新型コロナウイルス感染症のため、学校行事にPTAが十分に関わることができなかったが、広報委員による広報紙の作成は行っていただけた。次年度は、担当職員とPTAとの連携を今年度以上に強めていきたい。
			・防災に関する資料を積極的に掲示するとともに、教科指導の中で防災に関する話題を提供することで、防災意識の向上を促す。	B			
		PTAとの連携による学校活性化	・オンラインによるPTA総会を実施し、書面決議を行うことでPTA活動を円滑にスタートさせる。 ・2年間、十分な委員会活動できていないため、本年度は各委員会の活動を推進するため、PTAと各担当教員との連携強化を図る。□	B			
生徒指導部	生徒指導	基本的生活習慣の確立 「生きる力」を備えた生徒の育成	・必要に応じ登校指導・下校指導を行い、社会のルールやマナーを守れる生徒を育成する。	B	B	A	・本年度の考査前の登校指導は、予定通りに実施することができた。 ・行動制限の緩和にあたり生徒の行動にも変化が出てきてコロナ禍前の問題行動件数に戻りつつある。併せてSNS等による問題行動件数が後を絶たない状況だった。来年度においては、規範意識育成学習（スマホ安全教室）の全学年実施及び、実施時期を年度当初に予定する。
			・コロナ禍の現在、生活の中で何ができるかを考えさせ、規範意識を高め育てる指導の実践を目指す。	B			
			・ネットパトロール等の指導を徹底・強化する。	A			
		元気溢れる若高生を創る	・各行事をとおして課題解決能力、「豊かな人間性」を育成する。	A	A		・元気溢れる若高生の育成については、達成できたと考える。 ・1年間の創立110周年事業及び秋の式典が成功したことは大きい、次の120周年に向けて、次年度の111周年の行事・式典を本年度の意識を維持できるよう指導し、次のリーダー育成にあたる。
			・部活動加入率80%以上を目指す。	A			
			・全生徒が学校の広告塔となり校内外において責任ある行動ができるよう育成する。	B			
	保健	新型コロナウイルス感染予防	・新型コロナウイルスの感染拡大防止に最大限の努力を行い、学校行事等を行える教育環境を整える。	B	A	A	・新型コロナウイルス感染予防策として、校内では常に啓発し注意をしていたが、感染者が出ており、学級閉鎖や、学年閉鎖を行う事態となった。次年度は校内における感染予防策を常に呼びかけ、教育活動に支障が出ないよう努力する。
		環境美化活動の推進	・校舎全面改築に伴うゴミの処理や、校内の安全管理を十分に行い教育環境を整える。	A			・校舎改築に伴うゴミの処理等は事務室の的確な計画により安全にうまくいった。また、創立110周年記念式典に関しての清掃活動も職員、生徒が一丸となり記念式典成功の一端を担った。来年度は更に校舎改築が進むので、安全対策を充実させる。
		健康管理・安全衛生管理の徹底	・生徒の健康診断や救急救命講習会等を実施し、健康管理、安全対策に努める。 ・生徒の情報を共有し、教職員の共通理解を図る。	A			・生徒の健康診断等は養護教諭との連携がとれており、計画的に実施することができた。救急救命講習会については消防署が多忙のため計画をしていたが、実施することができなかった。次年度はより一層連絡を密にし必ず実施したい。

学校関係者評価

評価（総合）	学校関係者評価委員会からのご意見をご記入下さい。
A	・創立110周年の節目である周年行事は、生徒・教職員一丸となった取組であり、規範意識の向上、進路実績や部活動の躍進がみられ、地域からの信頼も高まりをみせたと思います。 ・「若松学」では、地元「若松」を多面的な視点から学習することで、生徒にふるさと「若松」への誇りを持たせ、魅力あふれる「若松」の持続可能な今後の在り方について、地元の専門家や行政の方々と協働して、主体的・継続的に提案する姿がとても印象的でした。生徒がこれからも、地元企業に就職したいという意欲が向上してくれることを願います。 ・「若松学」は福岡県公立学校優秀校表彰を受賞する等して、素晴らしい結果を残していると思います。 ・公共交通機関での乗車マナーにおいて、高齢者や身体の不自由な方に席を譲るなど他者を思いやる社会性は、他校が見習うべき規範性を備えていると感じました。 ・教職員の皆様が、授業力向上を目的とした各種の取り組みや、部活動の入部率向上、生徒の人間形成、学習意欲の喚起等への取り組みを通じて、文武両道を育むシステムが完成されていると思います。 ・多岐にわたる希望進路の100%実現を図る個別指導は、並大抵のことではなく、教員の皆様の熱意に敬意を表します。 ・今後ますます重要性の増す課題解決能力を育むためには、様々な課題の発見をはじめ、連携等による解決策の検討・実践・体験等が欠かせないと考えます。授業のみならず、学校行事や日々の活動など学校生活全体を通して、生徒の力を育もうという姿勢・実践に感服します。 ・コロナ感染については先生方の指導が行き届いているため、生徒も柔軟に対応しており、信頼関係がしっかりと構築されていると思います。 ・日々の教育、生活指導に対して、先生方へ改めて敬意を表します。今後もどうぞ宜しくお願い致します。

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からのご意見をご記入下さい。
A	・ICT機器が1人1台へと行き渡り、同機器を活用した新たな指導環境により、授業に取り残される生徒の減少や、生徒が納得いくまで繰り返し復習できる機能が活かされ、効果的に学力を向上させる仕組みが構築されていると思います。 ・若松学をはじめ、様々な地域活動の場面で生徒さんに関わっていただきました。地域からの感謝に声をよく耳にします。 ・地元企業から、キャリア教育の一環として次年度夏までの間に、工場見学などを盛り込んだバスツアーを提供したいとの意向も上がっています。「若高でしか学ぶことのできない独自色」をだすことに貢献できるよう、準備を進めています。 ・今年度の1年生から教育課程が変わり、指導と評価の一体化が求められている中で、先生方には大変なご苦労があったと思います。効率化できる点とそうでない点を分け、効率化によって空いた時間を有効活用していただけたらと思います。
A	・中学校訪問や各種広報媒体を活用したタイムリーな話題提供に力を入れていることがよく分かります。今後は、教職員の方々のみならず、生徒一人ひとりが若松高校の魅力を機会あるごとに伝えていくように生徒に教養していただければ、貴校への県民の理解がより深まると思います。 ・日頃の数々の素晴らしい取り組みや、その成果が中学生にリアルに伝わる広報ができると良いと思います。 ・海と山に囲まれた若松区にとって、地域防災は重要課題で、コミュニティの間でも意識が高まっているところです。そのような中、地域の避難拠点の役割を受け止め、さらに防災教育を推進していただくことは、大変心強く感謝申し上げます。 ・コロナの影響でPTAとしての活動がほとんどできていなかったが、次年度以降は形を変えて、少しずつ活動ができるようになればよいと考えます。 ・広報活動においては大変な努力を感じます、ありがとうございます。若松高校の良さをより多くの方に知ってもらうためには、メディアを利用しての広報活動も取り入れていくべきであると考えます。
A	・時々、学校を訪問させていただきますが、どの生徒さんも気持ちの良い挨拶をして迎えてくれますので、生徒指導が徹底されていると感じます。 ・大半の生徒は、社会のルールやマナーを守り、周囲に気を配り、親切心を行動に移すことができるなど、社会に範を示しており、問題行動を取る生徒はごく一部だったと思っています。 ・例えば、善行のあった生徒については、全校生徒の前で紹介するなどして、他の生徒に刺激を与え、自省を促すことも大切であると考えます。 ・110周年記念式典の際、来客対応してくれた生徒の皆さんは礼儀正しく、活気に溢れていて、元気をもらいました。 ・従来通りにはいかない生活の中でも、生徒のいきいきとした姿や元気な声での挨拶を聞き、指導が行き届いていると感じました。
A	・新型コロナウイルス感染拡大防止のための学校閉鎖等の措置は、やむを得ないと思われます。 ・創立記念式典に際し、清掃活動を一丸となって取り組んだ姿勢は素晴らしいことだと思います。 ・コロナ禍、物価高騰により家庭の抱える課題が深刻化していると耳にします。今後も一人ひとりに寄り添った教育相談をお願いします。 ・学校を訪れる機会は多いですが、消毒や検温をする場所が設置されており、感染防止対策が行き届いていると思います。

進路指導部	進路	生徒の学力向上と 主体的な進路選択能力の育成	・朝課外において習熟度別に講座を実施するなどして、より生徒の理解度に合わせた授業を行う。また、1・2年生では『スタディサプリ』を使って「振り返り学習」を行うことで基礎的・基本的な知識の定着を図る。また、『到達度テスト』を受験させることで生徒の理解度を図る。年2回の到達度テストに向けて、『ベースメント』を課外等で活用していく。	B	A	A	・生徒が主体的に将来の進路を選択できるように、様々な形でのキャリア関連行事を実施できた。そして、きちんと生徒が感じたことを記録しておくことで、実施後の振り返りをしていきたい。また、例年通りではなく、少しづつ生徒のニーズに合った形で実施を考えていきたい。 ・主権者教育、金融教育、租税教室の実施も考える。外部機関、各教科（公民科・家庭科）との連携をとって実施していきたい。 ・どういう進路をとるにしても、学力が必要になってくるので課外の必要性を感じさせていきたい。そのために、課外の内容も考えていく。	A	・今年度もキャリア教育「夢授業」に参加させていただきました。職業観を芽生えさせるというコンセプトはとても素晴らしいと思います。 ・若松警察署では、令和4年10月に警察官を志望する生徒3名をインターンシップ生として受け入れ、警察本部通信指令室の見学や鑑識体験、警察装備品の着装訓練を体験してもらいました。3名とも意欲と熱意にあふれており、好印象でした。 ・国公立大学希望者を増やしていくとともに、就職希望者に対しても手厚いサポートをしていただき、職場訪問やインターンシップ制度を活用され進路の選択肢を増やし、より希望に近い進路に進んでいきたいと思います。 ・地元企業の工場見学ツアーなどの実施が次年度以降されています。企業との協議により、活用していただけたら幸いです。 ・主体的に進路を選択できる能力を身に付けていくことは、今の時代、特に重要なことです。若松が様々な企業の団体、大学、行政との連携により、そのお手伝いのできる「まち」になれるよう、努めていきたいと考えています。その手始めに、地元の企業見学ツアー等に生徒さんたちが参加していただけるよう、次年度に向けて準備を進めています。
			・1年「夢授業」「職業ガイダンス」、2年「インターンシップ」「上級学校授業体験」、「若高シンポジウム」などのキャリア教育関連の行事を通じて、自らの将来のビジョンを描く能力やその実現のために今どうすべきかを考え、実行する能力の育成を図る。	A				
			・卒業生による「就職座談会」や企業による「職業ガイダンス」・「現場見学会」などを通じて、就職希望者の勤労観・職業観の育成を図る。	A				
	進路	生徒それぞれの希望進路の実現 国公立大学：10名 四年制大学：50名 就職内定率：100%	・高大教育連携講座や進路行事において、生徒の主体的に学ぶ姿勢の育成を図り、小論文作成能力や社会の諸問題に対して自ら解決策を考える能力の育成を図る。	B	A		・まずは、国公立大学を希望する生徒を増やしていく。そして、1年次から希望を高くもたせられるようなキャリア関連の授業・行事を考えていく。 ・生徒の進路に合わせた個別指導を、早めに計画し実施していく。 ・生徒が自ら率先して勉強しなければいけないと思わせるような環境を作っていく。 ・就職試験対策もかなり充実してきたので、今後も継続していきたい。		
			・課外の内容の精選を行い、より生徒のニーズに合わせた形で課外・補習を行う。また、推薦・総合型選抜入試対策として個別指導を充実させる。そのために、学年・各教科との連携を図る。	A				
			・就職希望者に対しては、校内での面接指導やSPI対策講座、外部講師による面接指導を行い、第1希望企業の内定を目指す。	A				
	人権・同和教育	特設授業を中心とした、人権・同和教育推進の取組の充実	・様々な教育活動を通して、人権を尊重することの大切さを学ばせるとともに、教師自身の体験や経験から得たことや「伝えたいこと」「訴えたいこと」の伝達といった、心の部分を深化させることで、人権を尊重する「ねらい」や目的を持って取組を進める。	B	B	A	・特設授業に関しては、コロナ禍により従来のように学年全体が集まることが難しく、各教室で実施することが増えた。しかしながらそのことで、共通したテーマ・学習内容のもと、各クラス担任から直接クラス生徒に話をする機会を持つことに繋がるきっかけとなったことは良かったと考えている。来年度もこれを継続するとともに、人権教育と各教科のねらいの関連性にも注目し、学校教育全体を通じて推進していく姿勢をさらに高めていきたい。	A	・人権同和教育は他者を思いやり、尊重し合うことです。ひいては、犯罪発生減少にも影響するものと考えます。引き続き、きめ細やかな指導をお願いします。 ・一人ひとりの生徒にしっかりと向き合い、信頼関係の中で必要な情報を提供することで、自らの進路を考えることができるようサポートしよう、という先生方の熱意と行動力が伝わってきます。
			・外部講師の招聘や、視聴覚教材の効果的な活用など、生徒の実態に応じて創意工夫した授業を展開できるようにする。	A				
		就学・修学・進路保障の取組を通した「生きる力」の育成	・統一応募用紙や違反質問に対する学習を充実させることで、生徒一人ひとりの人権が保障された進路実現に向けての取組へとつなげられるようにする。	B	A		・生徒に関する様々な情報を知ることで、生徒を共感的に理解し、信頼関係を構築することに繋がるため、生徒情報交換会は重要な位置づけにある。また、就学支援金の手続きに関する情報提供を生徒情報交換会の際に行えたことで、先生方により関心をもって対応していただけたのではないかと思う。奨学金は、担当である池田先生によるきめ細やかな対応により、入学時ならびに卒業後に向けた奨学金の手続きを滞りなく進めることができている。今後の課題として、ここ数年、手続方法等の変更が継続してなされていることもあり、正しい情報の把握や状況の伝達等も含め、クラス担任や事務室等と連携を図りながら対応を進めたい。		
			・就学支援金や各種奨学金に関する情報の提供や活用を通して、生徒やその家庭が、経済的な見通しをもって進路実現を図ることができるようにする。	A				
			・生徒情報交換会等を通じて、生徒やその家庭に関する情報を教職員間において共有することで、適切な対応ができるようにする。	A				
		人権侵害である「いじめ」のない学校づくり	・「いじめアンケート」または「学校生活アンケート」を毎月実施し、その結果をもとに、早期の状況把握から、いじめを起こさせないことを目指した対応に活かせるようにする。また、アンケートの実施時間や方法、内容等を適宜改善し、さらなる効果的な取組へと繋げられるようにする。	B	A		・各種アンケートは年度当初の計画のもと実施し、クラス担任や各学年の先生方にもしっかりと対応していただいたものの、人間関係のトラブル等、いまだ発生している状況にある。アンケートについては、生徒指導部とも連携・協力しつつ、実施を検討していくとともに、生徒一人一人の言動に対し、教職員がよりアンテナを高くし、お互いに連携を密にとりながら、きめ細やかに対応できるようにしていく必要がある。		
			・クラス担任や学年団、教職員全体での連携から、早期の解決へとつなげることができるようにするとともに、その後の様子などから、経過について見守る一助とする。	A				
学年経営部	研修	職員研修・若年教員研修の充実	・時世と職員のニーズに適した内容や、ICTを効果的に活用した授業改善に関する研修を職員研修として計画、実践する。	A	B	B	・1学期は「校務支援システムやkahoot!の操作方法」と「自殺対策」、2学期は「ロイロノートの操作方法」と「若年教員による課題研修報告会」、「若戸同権校内発表会」を実施した。任意の研修にも、定時制の先生方をはじめ多くの先生が参加された。今後も本校での喫緊の教育課題に応える研修を計画・実施したい。また、校外研修で得た知識や情報を職員全体に還元することで、教員の資質や能力を高められるようにしたい。	A	・図書館の利用率の増加に向けて、改めて読書の楽しさや素晴らしさを教えたり、居心地の良い読書環境の確保に取り組まれると良いと思います。 ・新型コロナウイルス感染症も以前のような勢いはなくなりつつあるので、PTA研修旅行を含め、様々な研修が充実するようになると保護者や地域としても嬉しく思います。
			・各分掌の先生方と連携して若年教員研修の内容の充実を図るとともに、研究授業の参観を促す。	B				
			・高めたい資質・能力に応じた研修が受講できるように、校外研修情報を積極的に提供する。	B				
		図書館利用の促進	・図書委員に図書館通信の発行などの広報活動を促し、委員会活動の活性化を図る。	A	B		・12月末現在、一人あたりの年間平均貸出冊数は2．35冊（昨年度3．1冊）であった。昨年度から大幅に減少した理由として、デジタル書籍に移行した生徒がいたり、図書室が教室棟から離れていたりすることが挙げられる。生徒が書に親しむために、次年度は、各学期に1回の読書時間を設定したり、授業等で図書室をなお一層利用し書に親しませる環境を作ったりすることが必要である。また、図書委員による委員会活動をより活発化させ、読書の啓発を行いたい。		
			・1年生対象の「図書館オリエンテーション」を実施するとともに、全学年対象の「朝読書週間」「読書の時間」を設定することで、生徒の読書習慣の定着を図り、生徒一人あたりの貸出冊数の増加を目指す。	B				
			・選書委員会の指導助言のもと図書館資料を充実させ、図書館利用者の増加を図る。	B				
	1学年	学習習慣の確立と人間力の向上	・自律した人間として遅刻や欠席の生徒を出さない指導を行い、年皆勤60名以上を目指す。	B	B	B	・諸行事を通して多くの生徒が真面目に授業に臨み、学校生活を送っていた。しかし様々な理由によって遅刻・欠席が多い生徒も散見された。また観点別指導への移行に伴い、学習習慣の確立を目標としていたが、未だ不十分であると考える。次年度は互助共助の自覚を高めて、相互に補完しあえる学年の雰囲気を醸成できるようにしていきたい。	A	・独自の検定制度を施工していることは、生徒のやる気をアップさせることに繋がる大変素晴らしい取り組みだと思います。 ・早い段階から、学びの場である若松区の魅力を知っていただきたいと思います。ものづくりや農業など様々な現場で働く大人と触れ合い、体験する機会をもっていただけるよう地元企業を具体的に検討しているところです ・今年度の1学年の転退学者が例年に比べ多かったとのことですが、様々な環境で育ってきた生徒が多く、先生方の苦労ははかり知れません。学校を頑張ろうとする生徒に親身に寄り添っていただき、何かあれば相談に乗ってあげる体制を整えていただければ幸いです。1年生に限ったことではありませんが、教員間での情報共有をしっかりとして、生徒の対応に当たっていただきたいと思います。
			・授業に真摯に臨む姿勢を養うとともに、復習や自学など、学習習慣の確立を図る。	B				
			・76期生として集団の中の1人として自ら考え、行動できるように人間力の向上を図る。	B				
		進路に関しての視野を広げ、希望進路実現に向けたキャリア教育を充実	・進路講演会や地元の社会人との交流会を経て、社会人としての在り方や自己の将来像を描けるようなキャリア教育を行い、生徒が自身の希望進路を見出し、実現するために努力できる環境を整える。	B	A		・進路指導を中心としたキャリア教育、並びに振り返りを行ったことにより、生徒の希望進路に向けて視野を広げることに繋げられた。またHR前の朝学や今年度開始した「若高検定」により、基礎学力の向上を目指して意欲的に取り組んだ生徒も垣間見えた。しかし、中学校時の学習内容が未だ理解できていない生徒もおり、希望進路の実現に向けた学力が今後の課題と考える。		
			・朝のHR前に「朝学」を行うことにより、中学校時の苦手科目の学び直しや基礎学力の向上を図る。	A				
		学年団としてオールラウンダーの育成とフォロー体制の強化	・それぞれの先生方の特性を発揮するとともに、そのスキルを学び、共有することで様々な状況においても対応する体制を作り、学年全体で指導できるようにする。	B	B		・行事や生徒指導など、学年内で相互にフォローし合うことで行事等を無事に終えることができた。ただし担任の業務がかなり多く、うまくフォローできなかった部分が課題として考えられる。学年としての指導などに関しては、かなり負担が大きいため、次年度は担任の負担軽減化を目標に取り組みたいと考える。		
			・相互に業務を補完しあうことにより、担副や分掌等での業務格差の是正を図る。	B				
	2学年	基本的生活習慣の確立	・時間厳守、出席率向上に取り組み、規範意識を身につけさせる。	B	B	B	・2学期までに欠席がない生徒が77名であり、学校での活動に真摯に取り組む生徒は多い。しかし、出席率は97．8%であり、学年全体として出席に対する意識を高めることが必要である。次年度は進路を決定する一年となるため、挨拶や時間厳守について繰り返し指導を行いたい。	A	・2年生は今後の進路を考え始める大切な時期です。若松警察署としても、1、2年生といった早い時期から警察官の仕事内容魅力等について継続的に説明させていただきたいと考えています。 ・創立110周年の行事の中で、若松学で学んできたこと、そして、未来の若松に向けての提案をしっかりとしていただき、大変感動しました。 ・地域の方々から、生徒さんと触れ合えたこと、課題を提起していただいたことへの喜びと刺激を受けたとの声をお聞きします。 ・今、若松ぐるみで子供たちを支えようとの機運が高まっています。生徒さんたちのニーズに合った地元企業の職場見学やインターンシップが充実されることを期待します。 ・若松学やインターンシップなど生徒たちの団結力は素晴らしいです。この力で自分たちの進路に向かってほしいと思います。
			・出席皆勤60名以上を達成する。	B				
			・立ち止まり挨拶を意識させるとともに、場に応じた適切な言葉遣いができるように指導する。	B				
		進路目標の決定と基礎学力の定着	・進路に応じた指導を行い、学習習慣を確立させる。	B	B		・インターンシップなど、進路関係の行事を実施できたことにより、生徒の進路意識を高めることができた。また、「若松学」で地域社会と関わりができたことで、生徒の視野を広げることもできた。次年度は、進路実現に向けて具体的な努力ができるように学年全体で指導したい。		
			・課題の提出を徹底させるとともに、自学の時間を確保することで、自ら学習する意欲を高める。	B				
			・常に社会に関心を抱き、主体的に将来の進路を探求する姿勢を身につけさせる。	A				
		学校生活の充実	・自ら課題を発見し、克服していく経験を積ませる場面を設定し、課題解決能力を身につけさせる。	B	A		・「若松学」での取組で、学級を越えた協働や課題解決の経験を積んだことで、リーダーシップを発揮する生徒が増えた。学年単位で行動する際の意識は高いため、学校行事や学習で成果を出せるように指導を続けたい。		
			・他者と協働して最善を尽くす生徒を育成する。	A				
			・学校の中核であるという自覚を持たせ、能動的に活動に取り組む生徒を育成する。	A				
	3学年	誰からも信頼される生徒の育成	・安易な欠席、遅刻、早退を許さない。1ヶ年出席皆勤50%以上を目指す。	B	B	B	・体調に違和感がある場合は無理して登校しないように指示してきたとはいえ、1ヶ年出席皆勤率31%（12月8日調査時点で39人）は低すぎる。学校には様々な行事があるが、計画から実行の段階で試行錯誤したり、お互い衝突した後でもしっかり合意形成して前に進んだりする経験がリーダーシップの育成、対人関係能力の構築にいかに大きく影響するかがよく分かる3年間だった。	A	・3年生は高校生活の総仕上げとして意識させ、授業出席はもとより、様々な学校行事への積極的な参加を促し、高校時代の思い出づくりをしていただきたいと思います。 ・3月1日の卒業式の日、入場前の生徒さん方の列とすれ違いざまに挨拶をすると、皆さん、気持ちの良い元気な挨拶が返ってきました。 ・答辞も素晴らしく、充実した高校生活を送ろうと頑張ってきたこと、それに寄り添い、意欲的にサポートされてきた先生方への感謝の気持ちが伝わってきました。
			・最上級生としてリーダーシップを発揮し、学校活性化に貢献する人材育成を図る。	B				
			・自分の言動に責任を持たせるとともに、対人関係能力を磨かせる。	B				
		生徒の進路目標に合致した学習指導の徹底	・課外授業を含め授業目標の可視化・明確化により、学習効果を高める。	B	B		・志望校を決定する際、現在の自分の学力を視野に入れて安全校を選択する生徒が多いという印象をもつ。低学年次に、勇気をもってチャレンジする姿勢を堅持することで成功したという経験を学習面でもっと数多く設定すべきだった。「褒めて伸ばす教育」を学習指導に反映させる工夫は絶対に必要である。		
			・模試の結果分析を怠らず、PDCAサイクルを意識させ、学習意欲の向上につなげる。	B				
			・進路指導部と連携して小論文指導、面接指導を計画的・継続的にに実施する。	A				
		質の高い学年運営	・学年と各分掌の有機的連携を意識し、情報交換を密にする。	B	B		・学年団全員がそろった会議はなかなか実施が難しかったが、生徒に関する情報交換は可能な限り実施した（学年フォルダ内に「気になる生徒」）。保護者とも常日頃から連絡を取り合い、ほとんどの生徒については十分な協力を頂いている。		
			・文書主義を徹底する。	B				
			・保護者との連携を図り、生徒に関する多様な情報を相互に受け入れる受容的な関係を目指す。	A				

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・創立110周年の節目である周年行事を終え、規範意識の向上、進路実績や部活動の躍進についての評価をいただいた。保護者や地域からの信頼も高まり、校内全体の教育力向上を達成することができた。今後も、地域創生型学習「学故創新・若松学」を継続し、本校の真の教育力を内外に示すとともに、体験的キャリア学習の充実を図り、生徒一人ひとりの可能性を最大限引き出し、伸長し、「生きる力」を身につけた生徒を育成していきたい。
・生徒の学力や個に応じた教育支援によって、主体的に進路を選択し実現できる生徒が育成できた。今後も、地域からの期待に応えられるよう、校内における教育活動をさらに充実させるとともに、校外の活動についても、地域ボランティア活動のみならず積極的に参加する等、生徒の意識を更に高めていきたい。
・ホームページの更新を迅速に行うことで、多種多様な最新の情報提供することができ、リアルタイムに広報活動を実施できた。本校の魅力を内外にさらに発信するためにも、多様な広報活動を検討し、中学生の志願者増に今後もつなげていきたい。

評価項目以外のものに関する意見

・110周年という長い歴史をもっている中、若松学と名を冠し、「若松区企業探訪」の発刊や「夢授業」の開催などの試みは、我々地元企業にとっても、大変有難く、今後も継続していただけたらと思います。
・コロナも落ち着きつつあるので、次年度は子供たちの活動をより間近で見られるよう、様々な行事の有観客での復活を期待します。